



### 屋根の勾配

「5 / 10」(40.5%)と「4 / 10」(22.1%)で6割以上のシェアを占めている。時系列で見ると「5 / 10 以上」が増加傾向にあるに対して「4 / 10 以下」は減少する傾向にある。(図 72)。

地域による違いがみられ、北海道では「0 ~ 2.5 / 10」(37.8%)、北陸では「4 / 10」(57.5%)、それ以外の地域では「5 / 10」が多くなっている(図 73)。

図72 屋根の勾配

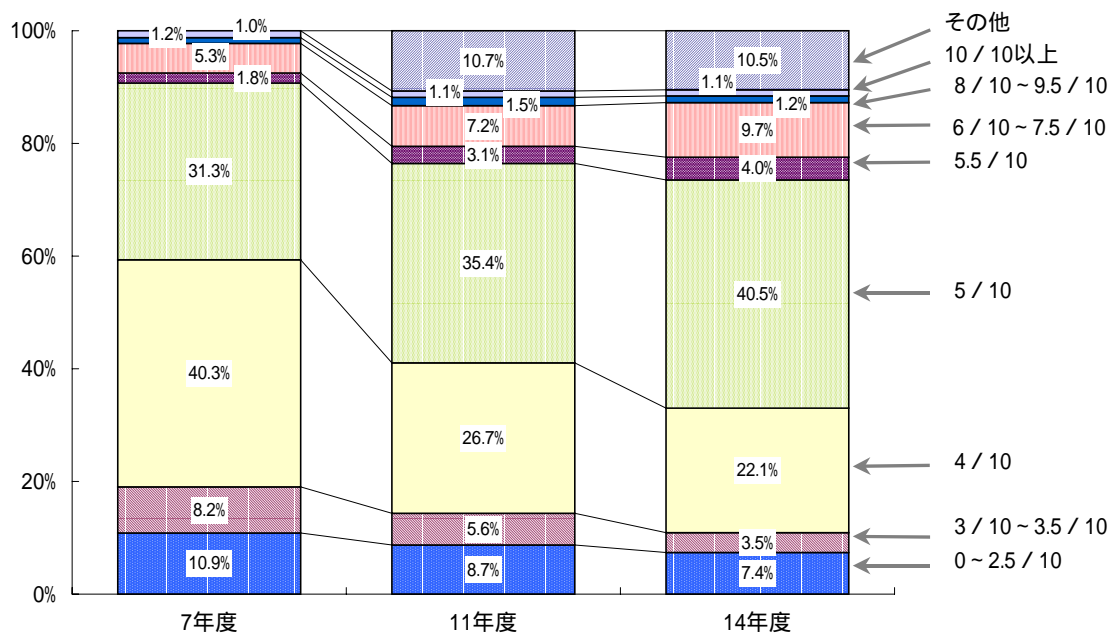
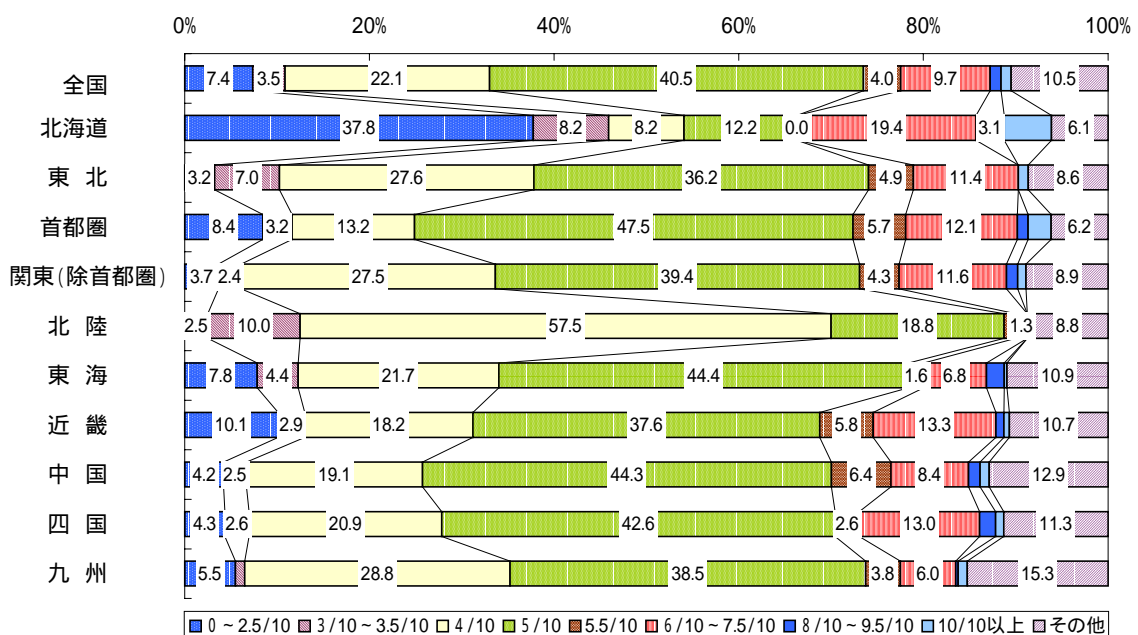


図73 屋根の勾配(地域別)



### 屋根葺き材

「粘土瓦(洋形)」(34.4%)が最多のシェアを占めており、時系列でも増加傾向にある。反対に他の葺き材のシェアは減少傾向にある(図74)。

地域別の特徴として、北海道では「金属板」の使用が92.2%に達し、近畿では「屋根化粧スレート瓦」が31.2%と他の材料に比べて割合が高くなっている(図75)。

図74 屋根葺き材

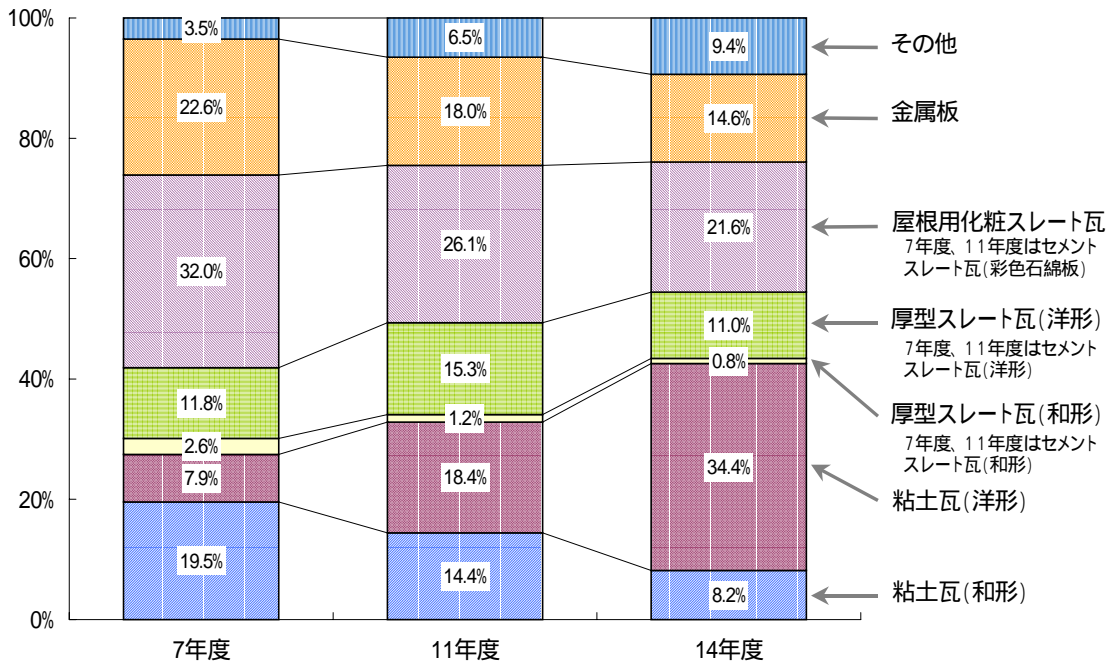
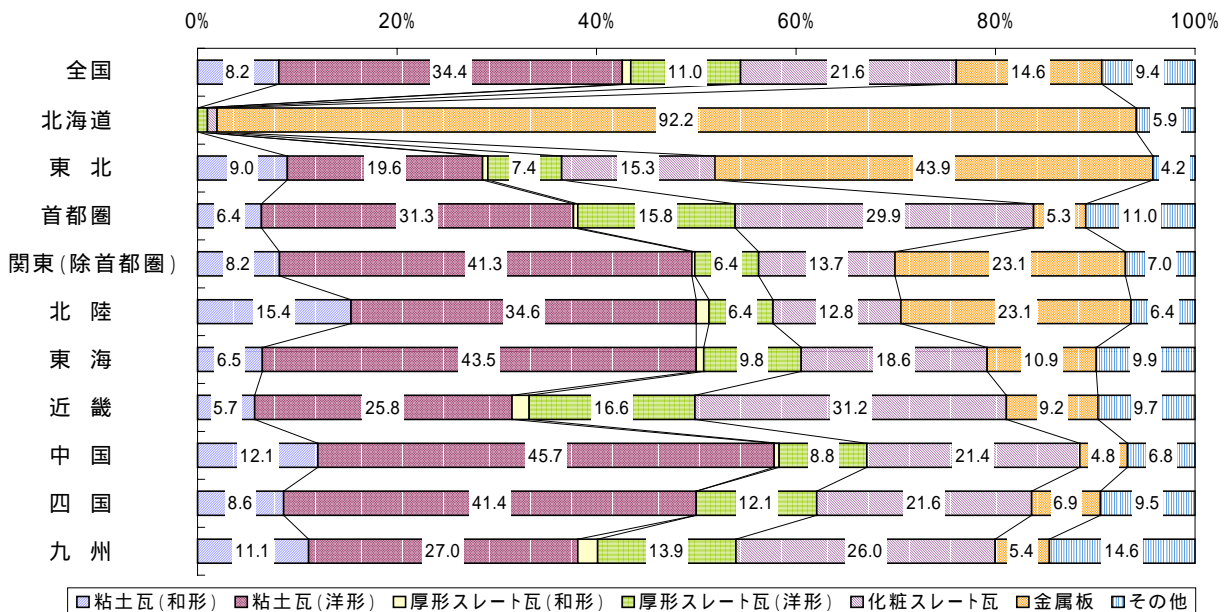


図75 屋根葺き材(地域別)



屋根葺き材を工法別にみると、在来木造やプレハブ工法では「粘土瓦(洋形)」が多く、枠組壁工法では「屋根用化粧スレート」が多くなっている(図76)。

屋根葺き材を形状別にみると、「金属板」が「無落雪(M型)」(93.5%)、「片流れ」(69.8%)、「陸屋根」(53.8%)で多く使用されており、「粘土瓦(和形)」は「入母屋」(57.8%)で最も多く使用されている(図77)。

図76 屋根葺き材(工法別)

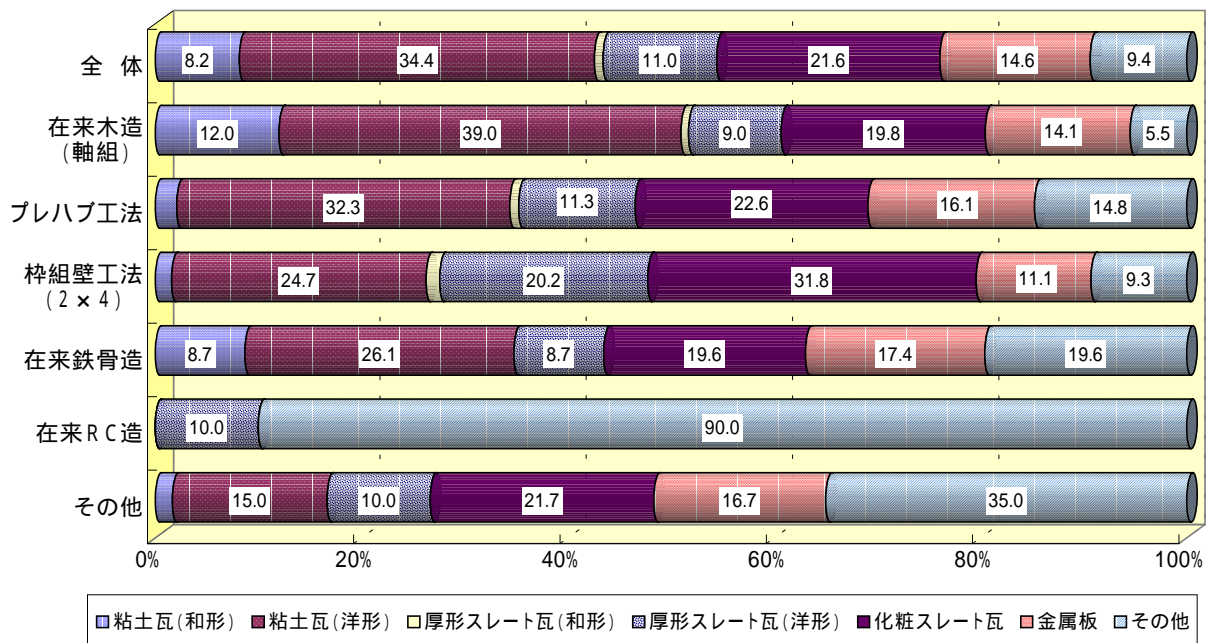


図77 屋根葺き材(形状別)

